

オナニー大好き少女の オナニー禁止地獄

2014/6/18

Var. 1. 07

シナリオ..あかいししろいし
サークル名..ケチャップ味のマヨネーズ

みか「こんばんわっ！わたし星冬みか！」

みか「わたし聖涼院（せいりょういん）学園の、一年生ですっ」

みか「今年入ったばかりの新入生だよ。」

みか「あ、えへへ、聴こえるかな？」

みか「わたし今……お布団の中で日課のオナニーの真っ最中なの」

みか「オナニーがもう好きで好きで好きでたまらなくて！」

みか「まいにちオナニーするのがやめられないの！」

みか「もうオナニーのない生活なんて考えられない！」

みか「お勉強しているときもご飯を食べてるときもいつもオナニーのこと考えちゃうくらいー！」

みか「うふふ……ほら……わたしすごい顔してのけぞってる。」

みか「今、わたしクリトリスをすごい速さで擦（こす）りあげてるの。」

みか「ちよつと痛いくらいに強くこするのがとっても気持ちよくて」

みか「刺激が強くて、もう耐えられないって、声が出ちゃいそうになるの。」

みか「もう片方の手はアソコを掻き回してるのよ。」

みか「奥まで指を入れてGスポットを思い切り掻きあげるの。」

みか「すごく……すごく気持ちよすぎて、わたしこわれちゃいそう！」

みか「でもわたしの手は絶対に止まってくれないの。」

みか「まるで無慈悲な機械に虐められてるみたいに」

みか「容赦なく責め立ててるの。そういうの、すごーい興奮しちゃうから」

みか「自分を追い詰めて……興奮しちゃうってるの。」

みか「……ああ……わたしってば、すごくだらしな顔してる……」

みか「口をだらんと開けて……よだれも垂れ流して……」

みか「んんう…… すっごくエッチ……自分で説明してても興奮しちゃう……」

みか「今、おマンコを虐めてた手が、デイルドーを手に取ったわ。」

みか「知ってる？ デイルドー」

みか「大人の人のおちんちんの形をしたとってもエッチな道具なの。」

みか「去年……近所の公園の茂みの中に落ちてたやつを見つけて。」

みか「我慢できなくて、持って帰ってききちゃった……!」

みか「最初は結構きつくて、ちよつと痛くて、入らなかったんだけど」

みか「だんだんだいじようぶになってきて……今じゃもう病み付き!」

みか「奥深く……子宮まで突き上げられるのがとってもいいのっ!」

みか「最近じゃどんなにイッても、」

みか「これ入れて、奥でイクまで満足でなくなっちゃったくらい!」

みか「そのまま奥まですぶずぶと沈めてえ、」

みか「最後に思い切り力を入れて!子宮を揺らすように打ち付けるのっ!」

みか「あーっ!っ!ひゃあーっ!っ!きもちいいよおおお!」

みか「子宮揺らされてるうう!突かれるたびにいつちやうよおお」

みか「ああ、もつと声出したいよおお!あえぎたいよおお!」

みか「そうなんだよねー。声出したいよね……」

みか「あ、えつとね。わたしの学校って、こういうの、すっごく厳しいんだー。」

みか「ミッション系?っていうの?よくわからないんだけど、」

みか「とにかく『みだらな行為は不潔なことです。絶対に溺れてはなりませんよ』だって。」

みか「ばれたら、とっても厳しいお仕置きが待ってるんだって!」

みか「あ……でもね。こうやってばれないようにオナニーするのってゾクゾクしちゃう……」

みか「背徳感……わかるかな? わたしイケないことしてるーって。そういう気持ち。」

みか「ばれちゃったらお仕置きされちゃうかもしれないって……」

みか「そう考えると、ドキドキハラハラして……」

みか「すっつごく興奮しちゃうの! わたしってちよつとヘン?」

しばらくオナニー音声再生

〳効果音 バタン!

みか「ひゃううっ!!?」

ナレ「その時、わたしの部屋の扉が勢いよく空きました」

学園長「みかさん? あなた。自分が何をしているかわかっている?」

ナレ「そこには学園長がたってました。」

〽録画されたオナニーをライブされながらお説教をくらう星冬みか

学園長「星冬みかさん……あなたは今、なぜここに呼び出されているかわかりますか？」

みか「はい……わかります……」

ナレ「翌日……わたしは学園長の部屋に呼び出されました」

ナレ「そこには学園長をはじめ、わたしの担任や他のたくさん先生方が待っていました」

学園長「あなたのこういう行為……目に余るものがあります……」

学園長「みかさん。ちゃんと自分が何をして、呼び出されているのかはっきり言いなさい」

みか「はい……わたしは……星冬……みかは……自分の部屋で……」

みか「え……エッチな……行為を……オナ、ニー……をしてしまったので……」

みか「呼び出されました」

ナレ「わたしは声を震わせながら答えました……」

ナレ「いま、映像として見せられているのは、わたしのベッドでの痴態を収めた映像……」

ナレ「そう、わたしの部屋は、監視カメラによって監視されていました」

学園長「隣の部屋の生徒から、夜に変な声がするという報告があったから、調べてみたら……」

学園長「ああ、なんとという浅ましい行為でしょう……」

学園長「若いのですし、身体が高ぶってしまう気持ちにはわかりますが、それを自制し、清く正しく、凜としていることこそがわたしたちの学校の生徒だと教えたはずですよ」

みか「はい……ごめんなさい」

ナレ「わたしは恥ずかしくて、情けなくて、目に涙を溜めながらうつむいて答えます」

ナレ「そのあいだも、わたしの痴態がたつぷり収録された映像は大音量で流れっぱなしになっています」

学園長「あなた……こんな破廉恥極まるものまで持ち込んで……ああ、なんてはしたないのでしょう……」

学園長「みかさ……こういうことはしてはいけなときちつと教えませんでしたか？」

みか「……はい……ごめんなさい……ごめんなさい……」

ナレ「わたしは恥ずかしさとみじめさで、涙を流しながら震える声で答えました」

学園長「みかさ……本当に反省していますか？このままでは、わたしたちは、学園の理念にのっとり、あなたをこの学園寮から追放しなければいけないかもしれないですよ」

みか「そ、そんな！そこまで悪いことなんですか！！？」

ナレ「この全寮制の学園に置いて、寮にいらなくなるといのは、もう学園から追い出されてしまうことに等しいのです」

学園長「そうです。みかさ。あなたは重大な罪を犯してしまっているのです……」

みか「罪……そんな……っ……お、おねがいですっ！なんでもしますっ！」

みか「どんな罰でも、お仕置きでもうけますから！！追放だけはゆるしてください！！もうしません！もうオナニーしませんからあ！」

ナレ「そんなわたしの必死な声を聞いて、学園長は静かに言いました」

学園長「ふむ……わかりました。どんな罰でも良いのですね？」

学園長「もしそこまでして赦（ゆる）しを乞（こ）いたいというのなら……」

学園長「これから1か月間……これを付けて生活してもらいましょうか？」

ナレ「こうして、わたしの罰が、はじまりました」

ナレ「罰の内容は、『自慰行為の禁止』……」

ナレ「わたしは貞操帯という、ひどい道具を付けられることになりました……」

ナレ「貞操帯は、固い金属の入った革製のベルトと南京錠で固定される下着で、股間の周りは透明な強化ガラスでできていました……」

ナレ「ガラスなので中の様子を見ることはできましたが、わたしは自分で直接アソコを触ることはできません」

ナレ「わたしは罰として、この貞操帯を自分からお願いして付けてもらうことになりました……」

みか「みかに……毎日オナニーしちゃう、はしたないわたしに……どうか……貞操帯で……」

みか「罰を……与えてください……」

＜効果音 …… かちゃん

ナレ「鍵がかけられました……これでもうわたしはオナニーをできなくなりました……」

ナレ「わたしは股間だけではなく、胸にも同じような革と、ガラスでできた透明なブラジャーをつけられました……」

ナレ「これでわたしは乳首でも気持ちよくなることはできなくなりました……」

みか「こ……これを一か月つけ続けるの？」

みか「トイレとかはうまいことできるようにできて……問題ないんだけど……」

みか「でもそういう時でも絶対にオナニーはできないようになってるんだって……」

みか「先生たちの熱意がカンペキなの……」

みか「ああ……わたし……このまま完全な禁欲生活を送らなきゃいけないのね……」

みか「こんなはずかしい状態、友達に言うこともできないし……」

みか「ばれることだって……ああ、これからどうなっちゃうの!？」

ナレ「罰はこれだけではありませんでした……」

みか「はふーっ……はふう〜っ……」

みか「さわりたい……さわりたいいっつ……」

みか「あふう……ふああ……もどかしいよお……」

みか「オナニー……オナニーしたいよお……っ！」

みか「アソコがじんじんしてるのお……」

みか「じくじくしてるのお……」

みか「ゆびでえ……おマンコ……ぐしょぐしょに掻き回したいよお……」

ナレ「まだ初日の午前中にもかかわらず」

ナレ「わたしはもう気がおかしくなってしまうそうなくらい追い込まれていました」

ナレ「わたしの貞操帯には、強力な媚薬クリームが、大量に塗り込まれていて」

ナレ「わたしのおまたをアツアツにとろけさせていました……」

みか「こんな状態……絶対1か月も耐えられないよおっ！！」

みか「いままで、毎日たっぷりオナニーしていたわたしが……」

みか「こんな発情状態でお預けされて1か月も耐えられるわけ無いじゃない！！」

みか「ああんっ！！もう！！こんなことになるんならもつと声我慢しておくんだっとうー！！」

みか「気がくるっちゃうよう！！ふあああん！！ええん……だれかあ……たすけてえ……」

みか「はあふ……はあふう……っ!!」

みか「何とか……1日おわたたあ……」

みか「授業中……ずっと上の空だったよお」

みか「でも仕方ないよね……?」

みか「おまた……媚薬で……ぐしょぐしょにとろけさせられて……」

みか「じくんじくん……うずいて、うずいて……仕方がないのに……」

みか「そんな状態で……普通に授業うけろ、だなんて……」

みか「あああ……わたしのアソコ……愛液が溜まって……じゅるじゅるにふやけて……」

みか「ひくひくして、さわってってパクパクしてるの……みえてるのにい」

みか「すぐ近くまで……手が届くのに……でも」

みか「さわれないなんて……こんなのなま殺しだよおおっ……」

≡効果音 かちん……かちん

みか「あああ……やっぱり全然気持ちよくなれないよお。ガラス邪魔だよお!!」

みか「今日だって……おマンコ……ずっとうずうずして……」

みか「それをたえて……たえて……」

みか「1時間……2時間……3時間……って、すごいゆっくりで……」

みか「ああっ……つらいよおおっ!!」

みか「からだが勝手にいやらしくねっちゃう……」

みか「オナニーお預けなんて……やっぱり耐えられないよおおっ!!」

みか「したいっ したいしたいしたいっ!!オナニーしたいよおおっ」

みか「夜なのに、夜になったのにいっ!触れないのつらいよおおっ」

みか「それにいい……さつき飲んだお薬……」

みか「わたしをもっとお淑（しと）やかにするためにつて……」

みか「毎晩飲みなさいって渡されたドリンク剤……」

みか「お薬の副作用……なのかな……?」

みか「なんかアレ飲んだ後から……すっごく身体が火照ってきてる……」

みか「わたし……発情してる……!!」

みか「あああああっ……」

みか「こんなの……たまらないよおお」

みか「すっごく興奮するう……っはあ……っはあ……!!」

みか「息……荒くなっちゃうよおお。カラダ……敏感になるのお……」

みか「たまらないよおお。いつもなんて比べ物にならないくらいわたし発情してる……」

みか「朝よりも……昼よりも……もつと……もつと……」

みか「カラダがうずいてええ……いやあああつ」

みか「とにかくパジャマに着替えてえ……ああっふあああつ!!」

みか「だめええ。生地がふれるだけでも感じちやううっ!!ぞくぞくするのお!!」

みか「もつとしたくなっちゃうよおお!おマンコお!おマンコぐちゅぐちゅしたいよおお……」

〓効果音 かちん……かちん……

(以下非公開)

みか「はぁーっ……はぁーっ……はぁーっ……」

みか「はひっ！ はひっ！！ はひいっ！」

ナレ「わたしが貞操帯を着けられてから1週間がたちました……」

ナレ「ずっと発情したままオナニーを我慢させられて……」

ナレ「はじめは誰にも気付かれないようにがんばっていたわたしも、この頃になると、カラダがくねるのも、興奮した、エッチな吐息もぜんおさえきれなり平静が保てなくなりました」

ナレ「仲の良かったお友達にも心配されるようになりました……」

みか「はっ……はぁ……っはぁーっ……」

お友達「ねえ？ みかちゃん……ホントに大丈夫？」

みか「え……？ 大丈夫……っ！ 大丈夫だよっ？……ご心配……なくっ！ んんう！」

お友達「先週から、熱っぽいままなんですよ？ 病院にもいったんだよね……？ なんて言われたの……？」

みか「え……え……つとね……はぁ……ふうぁ……！」

みか「なんか……一時的な……心臓の……んんう……病気……だって……」

お友達「ええ！？ それ本当！！？ 大変！！……おうちで休んでた方がいいんじゃないの？」

みか「それが……おうちにいても……あまり変わらないみたいだし……学校には、通ってた方がいって……お医者さんもいって……んんっ……たんだよね……だから……だいじょう……ぶ……だよ……はぁぁ……はぁぁーっ……」

みか「そういつて、わたしは、熱っぽく潤んで、とろんとした目をそのお友達にむけます……」

お友達「！そ……そう……なんだ……でも……むり……しないで……ね？」

（以下非公開）

ナレ「今日も頑張って耐えました……」

ナレ「そして、夜になると、あのお薬が待っています……」

ナレ「そう……わたしを発情させるお薬……」

ナレ「いつもは、渡されたその場で飲まないといけませんでしたが、今日からは部屋で飲むことを許されました……」

みか「部屋で飲んでもいいってことは……捨てちゃったりしても……ばれないってことなのかな……？」

みか「それとも、それもどつかで監視してて……捨てたらお仕置きになっちゃうのかな……」

みか「どうしよう……」

みか「このお薬……一口飲むだけでも」

みか「ぼつと身体が火照って。気持ちよくなって……」

みか「飲み干しちゃったらもう、カラダから取り出すこともできなくて……」

みか「一晩中、休むことなく身体中を火照らせる……悪魔の薬……」

みか「眠ろうとしても……カラダ発情しすぎて……全然眠れなくて……」

みか「うとうとしても……すぐに堪えらなくなっちゃって、夜中に何度も起きて……」

みか「そのたびに悶（もだ）えるの……オナニーさせてえって……もうゆるしてえって」

みか「何度もお願いしちゃうの……」

みか「おまんこっ……！おまんこ……おまんこ……おまんこおっ……っ！さわりたいよおおっ……せつないのおお……！もうげんかいなお……がまんしすぎてしくしくしてるのお……」

みか「イキたいい……もうイキたいのおお……もうずっとイッてないのお……こんなにじんじんしてるのに……クリトリスもお……むねもお……ずつとぎんぎんで……はちきれそうなのにい……っ……さわりたい……！さわりたいよおお！ちよつとだけでもいいからああー……。ほんのすこし……ほんのすこしだけ……くりゆくりゆって……くちゆくちゆってえ……！ふれさせてええ……ふあああーっおなにいい……！したいよおー……っ！！！」

みか「って……叫びだしたくて……たまらないの……」

みか「それに……今日だって……お薬……まだ全然抜け切っていないのに……」

みか「それなのに……また……？」

みか「でも……これのんだら……すっごい気持ちよくなるんだよね……」

みか「ぼつと身体が火照って……すっごく興奮して来て……」

みか「あ、だめ……もう考えちゃダメ……」

みか「オナニーできなくてもきもちよく……なりたい……って」

みか「お薬のみたい……って思っちゃうからあ！」

みか「ふうああ……だめだよ……どくん、どくんしてきちゃったよおお」

みか「飲んだらつらいのわかってるのに……」

みか「これのんだら……また一晩中オナニーできなくてつらいのにいい」

〱効果音　かしゅ

みか「あ……あけちゃ……った」

みか「あふああ……このニオイだめえ……」

みか「むわつと……甘ったるいような……ピリツとするようなあ……」

みか「エッチな匂いだよお……これだけでも興奮するよお」

みか「あたまがくらくらしてえ……」

みか「カラダがうずいちやうよおお」

みか「んっ……ふううっ！……うう……っ」

みか「はあっ！はあっ！はあっ！……」

みか「息がすごく荒くて……胸が苦しい……」

みか「おマンコもきゅんきゅんしてる……」

みか「はあ……はあ……」

みか「んっ……！」

みか「んぐっ……んぐっ……んぐっ……！」

（以下非公開）

オナニ一大好き少女のオナニー禁止地獄

8. 懇願	学園長「あら、どうしたの？ みかさん。そんな顔して……」 (ゆっくり) みか「うぐっ、ふええ……ふえええ……っ」 みか「せんせえ……せんせい……お願い……おねがいれすう……!!」 みか「もうわらひをゆるひてくだひやいい……っ」 みか「ふ……っ!ふ……っ!……っ!……!!」 みか「は……っ は……っ」 (以下非公開)
9. 我慢	ナレ「そうして……わたしは貞操帯をはずしてもらいました」 (以下非公開)
10. 罰	(非公開)

〱授業中、声を殺して震えているみか

みか「あ、ああっ きばちいいい……きばちいいいのおおおっ」

みか「ああああっ……あへ……あへ……」

〱効果音 おしっこ

みか「あああああああああああ」（すごく気持ちよさそうなお声）

みか「はあああああああああ、でりゅ、でりゅうううううう」

みか「あああああああああああああああああ

みか「あああああああああああああああああ

隣の女生徒「せんせー、星冬さんが、またおしっこ漏らしてます」

みか「あへ……あへ……あへ……」

学園長「もう、またなの？」

学園長「しょうがないわね……みなさんちよつと自習しててください」

学園長「星冬さん、ちよつとわたしと保健室へ行きましょう」

学園長「あんまり粗相が過ぎるようだ尿道も管理してあげる必要があるわね……」

みか「おまんこお、くりちゃんぐちゅぐちゅしたいのお」

12. おまけ2 その後の夜 狂気 ※ループして聞いてね！

(非公開)

13. おまけ3 夢の中

(台本無し)

14. サークル挨拶音声

「サークル、ケチャップ味のマヨネーズ」

「この度は本作品をご購入いただきありがとうございます」

「本作品は音声作品です。イヤホンやヘッドホンなどを使用して」

「椅子に座ったり、ベッドに横になるなどしてリラックスした状態でお聞き下さい」

「音声に気をとられすぎて椅子やベッドから落ちたり」

「物にぶつかるなどして怪我などしないようお気をつけ下さい」

「また、イヤホンやヘッドホンの端子が抜けていることに気づかず」

「スピーカーから大音量で本作品を再生した場合、あなたの人生に深刻な

問題を発生させる恐れがありますのでくれぐれもご注意ください」

「それでは、本編をお楽しみ下さい」

「やつほー！こんにちわ！わたし星冬みか！」

「ツインテールの似合うかわいい女の子だよ！」

「え、自分で言うなって？いいじゃない。学校でもかわいいって有名なんだよ？」

「でもね。わたしちょっとワルイ子なの」

「それはね……すごいちいさいころから、オナニーするのがやめられないの……」

「もうオナニーが好きで好きで好きで好きでたまらないの！」

「お勉強しているときもご飯を食べてるときもいつもオナニーのこと考えてるの！」

「オナニーのない生活なんて考えられない！」

「スイーツかオナニーか選べと言われたら間違いなくオナニーね！」

「わたし、オナニーでなくなったら死ぬ！絶対死ぬ！確実に死ぬ！息の根止まるわっ！」

「それくらい好き！恥ずかしい子だって思われちゃうから誰にも言わないけどね！」

「学校では澄ました顔して授業きいてるけど、ほんとには我慢するのも大変なの」

「だから寮に帰ってきたらもう我慢なんてできないよね」

「夜な夜な、授業の復習もしないで」

「声を殺してエッチな行為に溺れちゃうの！」

「最近だとねー。ディルドーオナニーにはまってるんだ」

「クリトリスいじりながらディルドーを奥までずぼずぼするのがとっても気持ちいいの！」

「何回も、何回も声を殺してイキまくるの！すごいキモチよくて」

「そのままぐっすり眠れるんだよ」

「でも……そんなわたしが今年入学した学校は……」

「すごい設備もいいし、授業も楽しいし、とっても楽しいんだけど……」

「学校全体が、エッチなことにすごい厳しくて」

「わたしの大好きなオナニーもいけない行為だからしちゃいけませんって」

「見つけたら厳しいお仕置きだって！」

「そんなのひどくない！？信じられないよね！！」

「あんなに気持ちいいことガマンなんてできるわけじゃないじゃない！」

「だからわたしは毎日こっそり布団の中でオナニーするの！」

「ああんつきもちいいっこんなのやめられないよおっ！！」

「イクウっ！！あはあああっ」